

# かけり

## 発行にあたって

第 1 号  
平成 22 年盛夏  
発行  
真龍山大雄寺  
北見市留辺蘂町宮下町 109  
TEL 0157-42-2418  
FAX 0157-42-2748

今年も早いもので、もうお盆の時期となりました。久しぶりのお参りに行った先々で、変わらぬ笑顔で温かく迎えてもらおうと、嬉しいという気持ちよりも、「変わらずお元気だったんですね」と、心がホッと和みます。しかしながら、時代と共に留辺蘂から離れざるをえない方も増えてきて、昔のようにお寺にお参りに行くことも難しくなった、という声も大きくなってきました。

そこで今回は初めての試みではありますが、お寺の行事・現状などを、また仏教に関する事を年に一回を目安に、皆さん方に伝えられたらと思いい、この発行にいたしました。

奇しくも今は少子高齢化、真っ只中であります。一人のお子さんが二人の親を見る、また近くにお子さんがいない、というのが当たり前になってきました。



二世十三回忌・三世晋山結制法要

私自身も日々のお参りの中、この命を真つ当することの難しさをひしひしと感じています。「生きることは苦しみである」とお釈迦様が説いたこの世の中、いかに私達一人一人が生きるこの意義を感じる事が出来るか。お釈迦様を初め、昔の修行僧、信者は一生をかけてその事の答えを探しました。それは決してテストの答えのような、全員に当てはまる答えでは無いはずで、それを皆さん方がお寺を通して、仏教を通して感じる事が出来れば、こんなに素晴らしい事は無いと思います。

合掌

# お寺の動き

## 大本山永平寺参拝



今年の四月末より三泊四日で予定していた、北見市無常寺様との合同での大本山永平寺への参拝に行っていました。永平寺では修行中の無常寺若さんの丁寧な山内説明、また場所を奈良・京都に移して世界遺産や温泉など、心身ともに有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、お寺での旅行を計画した時には、たくさんの方の参加お待ちしております。

## 二世十三回忌・三世晋山結制大法要

ちょうど一年前になりますが、先代方丈の十三回忌、現方丈の晋山結制を無事、円上することが出来ました。二日間には渡った法要で、五〇人ものお寺さん、たくさんの方の参拝者に見守られながらの荘厳な中、大雄寺の歴史の重さ、今まで大雄寺に携わってきた人への感謝の気持ちを感じずにはいられません。当日、滞りなく進めるよう手伝って頂いた役員、世話人の方には改めて御礼申し上げます。

## 旧納骨堂解体工事



2009.06.07

首座法戦式

古くからの檀家さんにとっては、今の納骨堂が出来る前、本堂裏の階段を登った所にあつた昔の納骨堂は懐かしく感じると思います。新しい納骨堂が出来ても、そのままにしてあつたのですが、この度、老朽化が激しくなり取り壊す事となりました。

## 大雄寺行事予定

- 8 月 16 日 孟蘭盆施食会  
新亡施食会 午前 11 時より  
一般施食会 午前 11 時半より
- 9 月 23 日 秋彼岸会 午後 1 時より
- 10 月 17 日 成道会 正午 12 時より  
・ 11 時頃より昼食が出ます。  
・ 御本山布教師様の御話しが御座います。
- 2 月 18 日 御涅槃会 正午 12 時より  
・ 11 時頃より昼食が出ます。  
・ 御本山布教師様の御話しが御座います。
- 3 月 21 日 春彼岸会 午後 1 時より  
又は 20 日

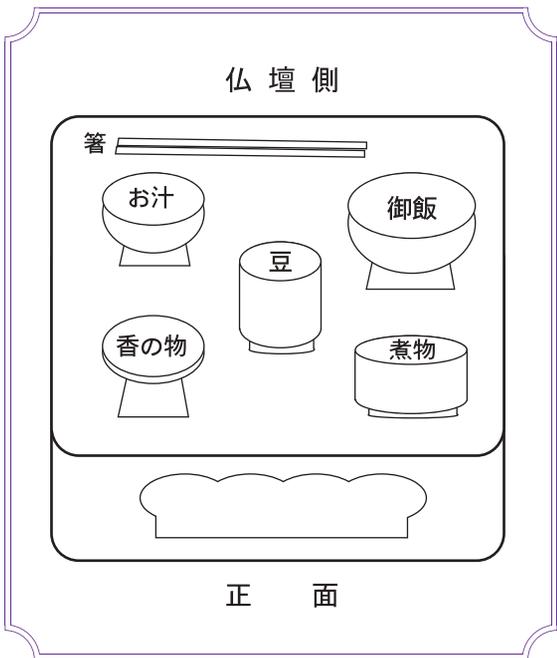
# 仏事

## A & Q

知ってるつもりでも、わからないことが多い、仏教用語もあるようです。そこでQ&Aのコーナーを設けました。

Q. おりく膳の正しいお供え方はあるのですか？

A. おりく膳は正式には御霊供膳おりのうけぜんと言います。年忌法要・お盆・お彼岸・月命日など節目に合わせて供えてもらえればと思います。また供える場合は仏さまに供えるので、箸が仏さまの方に置くように供えて下さい。また、故人が好きなものを供えなくなるのですが、本来は魚、肉、鳥、五辛(にら、らっきょう、ねぎ、にんにく、はじかみ)等を避けて調理します。私たちがお参りの時に箸をご飯に立てるのは諸説ありますが、死者に対するものであると意味しているからです。



Q. なぜ禅宗では住職のことを方丈と呼ぶのですか？

A. 「方丈」とは、一丈(約三メートル)四方の室ということ、住職が居住すると同時に弟子たちを呼び指導する場でもありました。禅宗寺院では重要な伽藍(がらん)の一つとなっている事から、住職本人の事を「方丈」と呼ぶようになったそうです。

## 総代挨拶



留辺薬町大富 戸田 健司

先日、大雄寺便りの発行にあたって原稿依頼を受け、檀家総代として一言、ご挨拶申し上げます。

平成十五年四月、大田原総代が亡くなった後、私に依頼があり、平成十五年六月十七日、大雄寺の総代を受けた次第であります。私の信条は「去るもの追わず、来るもの拒まず」でありましたから、これも何かの縁という事で、それ以来、約七年もの間、務めさせて頂いております。去年は三世晋山結制・二世中興龍玄玉秀大和尚十三回忌法要を無事、円上する事が出来ました。これも大雄寺檀信徒皆様方のご協力があったからこそで、檀家総代として心からお礼申し上げます。

お寺と檀信徒は、よく車の両輪であると言われるおります。今後共、私も檀家総代として皆様方の期待に応えられるよう努力しますので、檀信徒皆様方もご協力の程、宜しくお願い申し上げます。結びにあたり、大雄寺の更なる発展、皆様方のご多幸を祈り挨拶に代えさせていただきます。

### 平成二十二年度役員

- |     |            |             |
|-----|------------|-------------|
| 住職  | 米田 廣章      | 加藤 昌男 (旭中央) |
| 副住職 | 米田 憲人      | 小熊 正三 (旭中央) |
| 総代  | 戸田 健司 (大富) | 荒木 正憲 (旭西)  |
| 世話人 | 金子 泰章 (東町) | 佐々木勝太郎 (豊金) |
|     | 八巻 正一 (宮下) |             |
|     | 永沼 昭衛 (栄町) |             |



ゆい 優衣 (中3) 栄町 佐藤

ある日、あるお宅にお参りに行った時に、ふと目に入った一つの絵。右の絵のようなタオルを、去年の法要にお参りに来られた方には差し上げたと思うのですが、話を聞くと、そのお宅のお孫さんが自分なりにアレンジして書いているとの事。よく見ると左下に可愛く自分の名前が書いてあって、その絵を色んな人にプレゼントして、とても喜ばれているそうです。絵の「まあい心」が実際に繋がっているんだなあ、と実感した心温まるエピソードでした。

### 編集後記

▼お寺の会報みたいのが出来たら面白いなあ、と思いつきで始めたこの企画、まず頭を悩ませたのが題名。お寺の名前では在り来たりだなあと、大雄寺の「雄」の意味でもある、雄鶏が羽を伸ばしているイメージで「翔る」、それを平仮名にしてみました。頭では、様々なアイデアが浮かぶのだが、いざ文字に興すと自分の文才の無さを痛感する。頑張って毎年作りたいと思うのだが、「こんな面白い企画はどうですか？」とか、「私にも一筆書かせて下さい！」という方は是非。  
(副住職)